

一般社団法人日本解剖学会 2025 (令和7) 年度第8回理事会議事録

日時：2025(令和7)年11月29日(土) 14:00～17:00

場所：AP新橋（5階Kルーム）Web会議併催

出席者：仲嶋 一範（理事長）、池上 浩司、大和田 祐二、堀 修、宮田 卓樹（以上、常務理事）、天野 修、飯野 哲、大内 淑代、岡部 繁男、島田 昌一、高山 千利、寺田 純雄、徳田 信子、菱川 善隆、藤山 文乃、八木 秀司、吉田 成孝（以上、理事）、秋田恵一、尾崎紀之（以上、監事）、岡部 正隆、日置 寛之、竹林 浩秀（以上、常任幹事）、伊藤 杏佳、中村 聡（以上、口腔保健協会）（下線はWeb参加）

欠席者：野中 直子、八代 健太（理事）

I. 議事録署名人の選任

定款第39条の規定により、秋田恵一・尾崎紀之の両監事が議事録書名人として選出された。

II. 会議記録の確認

- (1) 2025 (令和7)年度第2回理事会 (e-mail会議) 議事録 (案)
- (2) 2025 (令和7)年度第3回理事会 (2025(令和7)年3月16日開催) 議事録 (案)
- (3) 2025 (令和7)年度定時社員総会 (2025(令和7)年3月18日開催) 議事録 (案)
- (4) 2025 (令和7)年度第4回理事会 (2025(令和7)年3月18日開催) 議事録 (案)
- (5) 2025 (令和7)年度第5回理事会 (2025(令和7)年3月19日開催) 議事録 (案)
- (6) 2025 (令和7)年度第6回理事会 (2025(令和7)年7月2日開催) 議事録 (案)
- (7) 2025 (令和7)年度第7回理事会 (e-mail会議) 議事録 (案)

III. 報告事項

1. 庶務報告

- (1) 教授就任による代議員の承認について
該当者なし

(2) 支部代議員会報告

資料に基づき、下記の支部代議員会の議事内容が報告された。

- ・ 第71回東北・北海道連合支部代議員会（2025年9月21日開催、旭川医科大学）
- ・ 第113回関東支部代議員会（2025年8月30日開催、自治医科大学キャンパス）
- ・ 第101回近畿支部代議員会（2025年11月15日開催、関西医科大学枚方キャンパス）
- ・ 第79回中国・四国支部代議員会（2025年10月18日開催、岡山大学鹿田キャンパス）

(3) 男女共同参画学協会連絡会報告

資料に基づき、男女共同参画学協会連絡会第23期第3回運営委員会（2025年8月29日開催）の議事内容が報告された。

(4) 若手研究者の会報告

資料に基づき、若手研究者の会の活動と今後の活動予定が報告された。

(5) その他

特になし。

2. 編集報告

(1) ASIにおける2024年インパクトファクターについて

資料に基づき、インパクトファクター（2024）が報告された。

(2) 2025・2026年度解剖学雑誌・ASI発送方法について

資料に基づき、ASIの電子化後の冊子での準備冊数、およびその発送方法が報告された。

(3) その他

特になし。

3. 企画・渉外報告

(1) 2025（令和7）年度奨励賞について

資料に基づき、7名の応募があり、12月2日に選考委員会が開催予定であることが報告された。

(2) 一級ならびに二級認定技術者審査結果について

資料に基づき、一級技術者5名の試験合格、二級技術者8名の資格審査合格の判定結果が報告された。

(3) 2026(令和8)年度第131回総会・全国学術集会準備状況について

資料に基づき、第131回総会・全国学術集会（会頭：岡部正隆氏、会期：2026年3月24日～26日）は、東京慈恵会医科大学にて開催されることが報告された。また、プレナリーレクチャー、特別講演の演者、日程表、演題数などの概要が報告された。

(4) 2027(令和8)年度第132回総会・全国学術集会準備状況について

資料に基づき、第132回総会・全国学術集会（会頭：大内淑代氏）および第12回アジア太平洋国際解剖学会議（APICA2027）（会頭：池上浩司氏）の開催に向けての準備状況が報告された。

(5) 日本医学会・日本医学会連合報告

資料に基づき、以下の報告があった。

- ・日本医学会第9回研究倫理教育研修会（2025年5月1日、北田容章氏、竹田扇氏、宮田卓樹常務理事出席）
- ・臨時評議委員会（2025年6月27日、池上浩司常務理事出席）
- ・日本医学会役員の選挙結果
- ・日本医学会連合定時総会（2025年6月27日、池上浩司常務理事出席）

(6) 生物科学学会連合報告

資料に基づき、生科連第31回定例会議（2025年4月30日、大和田祐二常務理事出席）について報告された。また、3つの学会（日本霊長類学会、日本毒性学会、日本バイオイメージング学会）の新規入会が承認されたことが報告された。

(7) 日本脳科学関連学会連合報告

資料に基づき、第32回評議委員会（2025年3月30日、仲嶋一範理事長、堀修常務理事出席）について報告された。脳科学オリンピックへの寄付金募集については、例年通り寄付はせずの対応であることが報告された。

(8) 国際渉外関係について（KAA、APICA、IFAA等）

資料に基づき、以下の報告があった。

KAA（韓国解剖学会）：

今回はGyeongjuにて10月15～17日に開催され、JAA-KAA国際交流協定に基づき、JAA（日本解剖学会）からKAAへ2名（孫 在隣氏、井原 大氏）派遣し、KAAとのJointセッションにて発表をおこなった。

APICA（アジアパシフィック国際解剖学会議）：

APICA2025は中国広州市で2025年8月9日～11日に開催され、JAAからは基調講演（寺田純雄前理事長）、シンポジウム企画（仲嶋一範理事長、竹林浩秀氏）などで貢献した。また、APICA2027の招聘活動を行い、日本とトルコでの投票が実施され、日本招致が決まった。現在はAPICA2027の準備を進めている。

IFAA（国際解剖学会議）：

2026年はオーストラリアのメルボルン大学で開催が決まっている。JAAからは個別参加とする。

(9) 日本外科学会CST推進委員会報告

資料に基づき、「一般社団法人日本CST監理・支援機構」の設立準備状況について報告された。

(10) その他

特になし。

4. 会計報告

(1) 支部学術集会決算について

資料に基づき、以下の支部学術集会の収支が報告された。

第71回東北・北海道支部連合学術集会（2025年9月21日開催、旭川医科大学キャンパス）

第113回関東支部学術集会（2025年8月30日開催、自治医科大学キャンパス）

第85回中部支部学術集会（2025年10月11日～12日開催、浜松医科大学キャンパス）

(2) 2025（令和7）年度第130回総会・全国学術集会収支決算について

資料に基づき、第130回総会・全国学術集会（APPW2025）の収支決算が報告された。

(3) 2025（令和7）年度中間決算書について

資料に基づき、2025年度中間決算では、本会計、特別会計ともに、ほぼ例年通りであることが報告された。

(4) その他

教育委員会が計画しているアンケート案が報告された。

5. 理事長報告

(1) CST事業の法人設立準備委員会報告

第4回CST事業の法人設立準備委員会合同委員会の議事録に基づき、CST事業の新法人設立に向けた継続審議の内容が報告された。定款（案）と細則（案）には、解剖学会が要請していた意見が反映されていることが確認された。特に、ご遺体の取り扱いに関する内容を決議する場合には、献体者の意向に反することのないように、事前に篤志解剖全国連合会および日本解剖学会と十分に調整することが定款（案）に記載されていること、及び、監事7名以内とし、そのうち1名は日本解剖学会から選出されること、監事1名でも異議を唱えた場合には理事は再検討が求められることが確認された。また、美容外科医による不適切行為に関する共同声明が発出されたことが報告された。さらに、CST推進委員会によるサイトビジットの現状等について報告がなされた。第32回日本医学会総会においては、CSTの法人化をテーマとするシンポジウム企画が調整中であることも報告された。

(2) その他

特になし。

IV. 審議事項

1. 名誉会員・永年会員の推薦について

資料に基づき、名誉会員は該当者なしであること、永年会員については11名が対象であることが承認された。来春の定時社員総会に諮る。

2. 申請による代議員について

6件の申請があり、出席理事による投票の結果、5件が了承された。来春の定時社員総会に諮る。なお、代議員選出規定に関し、申請書様式の見直しの必要性等について議論が行われた。

3. 入会に関する申し合わせについて

資料に基づき、解剖学会入会に関する申し合わせが承認された。

4. 2025(令和7)年度認定技術者功労賞について

今年度は該当者なし。

5. 2029(令和11)年度総会・全国学術集会開催校について

資料に基づき、名古屋市立大学を開催校、名古屋市立大学大学院医学研究科統合解剖学分野教授の植木孝俊氏を会頭、山梨大学大学院総合研究部医学域解剖学講座システム生物学教室教授の篠原良章氏を副会頭とすることについて審議を行い、了承された。来春の定時社員総会に諮る。

6. 学会ホームページリニューアルについて

資料に基づき、学会ホームページ改訂について議論がされた。現行のOHASYSをベースにしながら、新たに実装すべき機能について若手研究者の意見を広く募りながら、個別に改訂を進める方針が確認された。今後は、執行部からは宮田卓樹常務理事と池上浩司常務理事、アウトリーチ委員会の数名、若手研究者数名を加えたワーキンググループを設置し、幅広い世代の意見を集約しながら改訂を進めることが承認された。

7. 会員名簿について

資料に基づき、2028年に発行予定の会員名簿について審議した。発行方法として、従来通りの冊子体、検索機能付き電子体、冊子体と同様の情報をPDF化した電子体の3案が示され、それぞれのメリットとデメリットが検討された。冊子体については送料等の値上げによる経費増大という課題、検索機能付き電子体については個人情報保護の課題を解決する必要があるとの説明がなされた。また、他学会では名簿作成を取りやめている事例等も紹介され、今後は、堀修氏（常務理事）を中心とするワーキンググループを設置して、まずは必要情報と不要情報の選別から検討を進め、将来的には電子化への移行を視野に入れていくことが確認された。

8. 2026(令和8)年度事業計画案について

資料に基づき、2026(令和8)年度事業計画は、ほぼ例年通りであることが説明された。諸外国の解剖関連学会（AG、KAAなど）との相互交流については、諸外国の解剖関連学会との相互交流と記載を変更することとした。

9. 2026(令和8)年度仮予算書案、ならびに事務委託契約について

資料に基づき、2026(令和8)年度仮予算書案について承認された。2025年度に比べ、全国学術集会に関わる収

入・支出が500万円程度増えていること、ASI誌の電子化に伴い、製作・編集・発送費が500万円弱減少することが報告された。名簿作成積立金については、予定通り本会計からの繰入金（令和8年度分：20万円）が積み立てられることが確認された。特別事業積立金の予算案については、東京開催という事情を勘案して学術集会託児費用を別途50万円計上し、若手会員への解剖学実習旅費支援（50万円）と学術集会参加費の補助（50万円）と合わせ、計150万円を若手育成支援として計上することが承認された。一般財団法人口腔保健協会との事務委託再契約については、昨年度の合意内容に従い、法人学会加算事務費ならびに月額事務管理基本料金は据え置きとし、会員数増加分を加味した金額にて再契約することが承認された。

10. その他

解剖実習およびCSTに関する諸問題について広く意見を交わし、学会としての方向性を丁寧に議論して定めていくことが重要であるとの認識で一致した。今後、以下の点について、理事会および常務理事会で議論を重ねていくことが確認された。

- ・近年、独居や身寄りのない高齢者が増加している状況において、ご遺族の同意の確認方法など献体受け入れ時の大学側の手順に関して、日本解剖学会として、篤志解剖全国連合会とも連携して一定の指針を策定する必要性について議論が行われた。

- ・医学生や歯学生以外の学生による解剖学実習への参加のあり方について議論が行われ、その内容と必要性に関する該当職域におけるコンセンサス形成、献体登録者やご遺族の同意ならびに十分な理解、国民的コンセンサスの状況などをふまえて慎重に対応していくことの重要性が共有された。

次回の理事会は以下の通りとなった。

日時 2026(令和8)年3月23日（月）17：00～19：00

会場 ミーティングスペースAP浜松町（B1階：O会議室） ※ハイブリッド形式